

特殊な病気の一卵性双生児

高度な治療で無事出産

川崎医大付属病院 きょう退院

1月から30例以上を、5例で成功した。担当通アクセスのよさを生
施。昨年10月以降はよする村田晋・産婦人科かし、中四国から広く
り高度な医療設備の整 医長は「手術が成功す 患者さんを受け入れた
った同大付属病院で手 れば胎児の救命率は格 い」としている。
術を行い、14日現在、 段に上がる。岡山の交 (伊丹友香)

川崎医科大付属病院 病気は一卵性双生児 0人程度の妊婦が発症
(倉敷市松島)が、胎 の1割程度に起こると するとされる。

盤を共有する一卵性双 いう「双胎間輸血症候 手術は「胎児鏡下胎
生児に起こる特殊な病 群」。一つの胎盤につ 盤吻合血管レーザー凝
気のレーザー手術を導 ながる血管を通じ、片 固術」と呼ばれ、妊娠
入し、最初に治療を受 方の胎児(供血児)の 16週から28週未満の妊
けた女性が無事出産し 血液がもう一方の胎児 婦が対象。母体に小さ
た。高度な技術を要す (受血児)に取られる な穴を開け、専用の内
るため、治療できる施 格好で血流バランスが 視鏡を挿入して2人の
設は国内で10カ所、中 崩れ、供血児は発育不 血液が行き来する血管
四国地方では唯一とい 全、受血児は心不全な をレーザーで焼き固め
い、女性は15日、生ま などを発症。重症化する。2012年から保
れた双子と一緒に退院 と死亡するケースがあ 険適用となった。
する。国内では年間25 退院する女性は里庄



難度の高い手術を乗り越え、生まれた双子の女児
を抱く馬場さん(右)と村田医師

町、公務員馬場友里子
さん(28)。妊娠18週で
手術を受け、同37週の
今月8日に双子の女児
を帝王切開で出産し
た。「病気や手術のリ
スクを知って不安もあ
ったが、手術を終え、
羊水に浮かぶ赤ちゃん
をカメラ越しに見た時
はほっとした」と振り
返り、「これからの生
活についてあれこれ考
えられることが幸せ」
と話した。

県内では、川崎医科
大付属川崎病院(岡山
市北区中山下)で14年